

“わくわく”を引き出す

子どもの
いま
未来

例えばアニメが好きなら、アニメがわくわくエンジンなのだろうか。朝山さんによればそうではない。野球に夢中な子どもがいれば、大人はつい「野球選手になれば」と言う。しかし、プロ選手にまでなれる人は多くない。中学高校ぐらいになると「おれ、プロ



お仕事マップに取り組む小学生たち（キーパーソン21提供）

一人一人が輝く社会に

川崎のNPO



キーパーソン21の運営についてスタッフ
と話し合う朝山あつこさん
三川崎市の事務所

は無理だし」と気付き、挫折したような気持ちになる。

チームに自分が役立っていること、C君は素振りや筋トレで日々、成長を感じる。

三者三様
キーパーソン21のプログ
ラムと一緒に受けた中学生
の中で、3人が野球に打ち
込んでいたケースがあつ
た。なぜ野球が好きなのか。
突つ込んで聞くと、A君は
作戦を立てることに、B君は

ンジンは三者三様だつた。
それなら3人も打ち込
む対象は野球に限らない。
「このわくわくエンジンを
自分で見つけているか、親
や先生が理解しているか
が、とても重要です」。キ
ーパーソンの活動は、子ど

キーパーソン21の歩み

1998年	●朝山、長男の学校崩壊に直面
2000年	●「キーパーソン21」設立
01年	●学校での「おもしろい仕事人がやってくる」講演とワークショップ開始 ●NPO法人化
03年	●「夢！自分！発見プログラム」開発スタート
07年	●企業やNPO団体との連携スタート
12年	●東日本大震災被災地の高校生を対象にキャリア教育プログラム
13年	●児童養護施設のキャリア教育支援 ●東京の小学校1校で教員全員を対象にキャリア教育研修
14年	●生活保護世帯の中学生の学習支援始める (敬称略)



コミュニケーションの始まり。
紙にニックネームを書いて自己
紹介する(キーパーソン21提供)

【一口メモ】東京都内の中学校で7月、キーパソン21の「コミュニケーションゲーム」の実践を見た。第3関門のテーマは「親にもたがいます自分自身を知ること、次に社会を知ること」を目指す。そのためプログラムは多様だ。

自分や友達好きなものの大切だと思うことを知り、世の中の仕事とつながっていることに気付く「すきなもののビンゴ」&お仕事マップ」、初めて会う大人と会話し「伝える・尋ねる・お願いする」の3関門突破を目指すコミュニケーションゲーム…。

わくわくエンジンを見つ

携帯電話を持たせてほしいとお願ひする。生徒は4人一組できょうだいになり、父親・母親役の大人になる理由を説明する。「アルバイトのために必要だ」「家族の連絡のために欲しい」。

けた子は劇的に変わると朝山さんは言う。最近も小6から不登校だった男子高校生が、個別プログラムを受けた後、急に登校し始めた。

いずれかのプログラムを受けた子は3万5千人を超

父親に断られ、未っ子役の女子生徒がこう説得した。「私は小学生だから、なくともいいけど、お兄ちゃんたちには必要なんだから認めてほしい」。この女子生徒に最高点が付いた。

えた。

朝山さんは男の子３人の母親。１８年前、中２だった長男の学校が荒れた。生徒が暴れ、廊下に牛乳をまき、トイレを壊す。ひどく無気力になる子もいた。「暴れる子も無気力な子も退屈する

うに見えた。何に向かって生きていくか分からなくなっているようにした」と朝山さん。目標は親や先生に与えられるだけ。主体性が奪われてしまっているのではないか。

固定観念

長男は中3になって「高校に行かない」と言いだす。それは朝山さんの固定観念を揺さぶった。「一本取れた」と思いました。確かにこれが学校だと思ったら学

校に行きたいと思うわけではない。学校や地域、家庭、日本の教育のあり方そのものが問われている」と気付く。

自分の子どもだけの問題ではないと2000年、キーパーソン21を創設する。NPOの活動と自らの子育て経験から、課題とその解決の道筋をつかみ「二人一人が輝く」という理想の実現に向けて走っている。

（共同通信編集委員
・佐々木央）

夢に向け原点に戻る場所

キーパーソン21は生活保護世帯の中学生を対象に無

料の学習会を開いている。中3で母親に連れて来られたトシ君（仮名）は6時半から2時間の教室なのに、終了直前に来て5分間だけ勉強して帰るような状態だった。

と」だった。

そのためにはお金を稼がなくてはならない。彼はどうせ働くなら好きなことをしたい。モノ作りが好きなので建築科のある学校に行き資格を取りたい」と話し

ある日、わくわくエンジン
のプログラムを受けたた
で、朝山あつこさんが感想
を聞くと「自分感動し
た」。彼のわくわくエンジ
ンは「幸せな家庭を築こ
う」という目的が明確にな
った。学ぶ目的が見違える
ように、猛烈勉強を始め、
全日制の工業高校に合格
した。

勉強が中だるみになった
時期もあった。朝山さんが

声をかけると「そうだった、そうだった」と思い出したかのように、また勉強に集中した。「わくわくエンジン」はそんなふうに、原点に戻るところなんです」

資格取得を目指して高校も休まずに通っている。学習会に来る中3の少女は外国籍の母と2人暮らし。一働きっぱなしの母を助けたいから中学を出たら「働く」と話していたが、プ

豊かさ支えたい

記者ノート

私のわくわくエンジンは何だろう。取材していて、何度か立ち止まるような気持ちになった。

キーパーソン21のプログラム「すきなもののビンゴ」は、4人で16のマスを埋める。1人四つずつ好きなものを言い合う。アニメやゲーム、アイドルが並んだおもしろいかと思ったり、そうではなかった。スポーツや趣味に関わることも、大切な時間…。チームごとに個性のある16マスが完成した。

多くの問題はあっても、子どもたちは豊かに生きようとしている。それを支えたいと思った。

朝山さんは「夢のために」も進学を諦めない方がいい。助成制度を利用すれば「進学できる」と勧め、少女は夢の実現に向かって歩みだした。

＝随時掲載します＝

時鐘 高齢者に食の危機

世界でも有数の長寿社会である日本。特に地方では若年人口の流出による高齢化が止まらない。その結果、孤立しがちな高齢者の食生活が危ういことになっている。医師や栄養指導の専門家が危機感を募らせている。

かし、体の自由が利かなくなったり、運転手役だつた連れ合いと死に別れたりすると途端に困り果てる。バスで街へ行くにも便は一口に数本。バス停は遠く、電動カートでは街まで行けない。移動販売もなければいわゆる買い物難民となる。

厚生労働省の2014年の患者調査では、高血圧性疾患の患者は3年前から100万人以上急増し、100万人余り。その多くはスーパードラッグの加工食品に頼りがちになり、同じ問題が生じているという。

地道に関心を高めたい

今回発表された全数調査は、抽出調査に続く第2弾として総務省が選管を通して初めて行ったもので、詳しい調査のデータを今後の参考にする考えだ。結果を精査し、投票率向上のための今後の取り組みにつなげてほしい。

県内の全数調査結果で、見逃せないのが年齢別の内訳である。18歳は52・06%

較的あつただろう。

一方、19歳は進学や就職などで親元を離れて暮らす人も多く、住民票を実家に残したままのケースも少なくない。参院選の後、山形大が1年生を対象に行つた意識調査では、投票したのは3割程度にとどまり、住民票を移していない学生が6割を占めた。

政治への関心を高める取り組みは、選挙の有無に関係なく地道に続ける必要がある。各政党も参院選では18歳選挙権を意識した公約を掲げたり、若者向けのイベントを開いたりしてきたが浸透は十分で、高投票率には結び付かなかった。若者に向けた政策やメッセージの発信を普段から心掛けてもらいたい。

2016年8月17日

こうした店は簡単な総菜やパン、インスタント食品などの食料品を売ってはいるが、野菜や肉、魚など生鮮品の取り扱いには少ない。

過疎地の高齢者でも、車が運転できないうちはどうにか街へ買い物に行ける。し

やタンパク質が不足し、水化物に偏りがちだ。加食品による塩分の取り過ぎも目立つ。高血圧、糖尿などのリスクがぐっと高

高齢者の孤立と食生活の危機は、過疎地だけの問題

ためには行政だけでなく地域を挙げて、高齢者の食の改善が急がれる。栄養士などが掲げる「食べることは生きること」というキャッチフレーズを思いだしただい。

(由)

(由)